

○2030年頃の実用化が期待され、経済社会に大きなインパクトを与え得るエネルギー技術の展望と関係省庁の連携による新たな研究開発スキームの在り方について、有識者を交えて広く意見を求め、新たな政策の実現に向けたコンセンサスを形成をすることを目的に、両省が協力して開催。

## 開催概要

日時：平成24年6月15日(金) 13:00～17:30  
会場：日本科学未来館 みらいCANホール  
主催：独立行政法人科学技術振興機構  
参加者：236名(企業約40%、大学・独法約40%)



## 議事次第

### 第1部 未来を切り拓くエネルギー技術の展望と課題

『蓄電池の現状と将来 -産業の米-』逢坂 哲彌 早稲田大学 理工学術院 教授

『次世代自動車と持続可能な社会にむけた技術課題について』岡島 博司 トヨタ自動車 技術統括部 主査 担当部長

『熱技術の課題と展望』鹿園 直毅 東京大学生産技術研究所 教授

『再生可能エネルギーとその貯蔵・輸送』太田 健一郎 横浜国立大学大学院 名誉教授・特任教授

### 第2部 パネルディスカッション: 社会に貢献する科学技術と研究開発

笠木 伸英 科学技術振興機構研究開発戦略センター 上席フェロー

斎藤 健一郎 JX日鉱日石エネルギー(株) 研究開発本部研究開発企画部 部長

堤 香津雄 エクセルギー工学研究所(株) 代表取締役社長

橋本 和仁 東京大学大学院 工学系研究科 教授

安井 至 製品評価技術基盤機構 理事長<モデレータ>

福島 洋 経済産業省 産業技術環境局研究開発課長

篠崎 資志 文部科学省 研究開発局環境エネルギー課長

# 平成25年度予算要求における文科省・経産省の連携テーマ

## 両省が連携する技術の三要素

我が国経済社会に大きな  
インパクトを与える

リスクが高く、実用化・事  
業化まで長期の取組が必要

我が国が強みを持ち、世  
界への貢献が期待される

### 1. 次世代蓄電池

電気自動車やスマートグリッドの本格的な普及を控え、二次電池のコスト低減、エネルギー密度向上には大きな期待。我が国が有する二次電池技術の強みを生かし、次世代蓄電池を開発する。

### 2. エネルギー貯蔵・輸送

再生可能エネルギーの時間・空間的な偏在を補完し、我が国において安価・安定な再生可能エネルギーの利用を可能とするため、水素等のエネルギー貯蔵・輸送に関する技術を開発する。

### 3. 未利用熱エネルギー

我々が有効に活用できていない熱エネルギーの利用を促進し、膨大なエネルギー損失を回収して一次エネルギーの需要を抑制するため、熱エネルギーを有効活用する革新的な要素技術やシステム技術を開発する。

### 4. 革新的構造材料

次世代の航空機や自動車等の競争力獲得のためには、軽量化による燃費向上・高速化等が最重要課題。チタンや炭素繊維複合材料等の高性能材料の開発や異種材料接合技術等を開発する。